記者発表資料

平成２９年１０月２３日

大　　仙　　市
国土交通省　湯沢河川国道事務所

大仙市大町通で『ハンプ』（凸部）の実証実験を行います。
～通学路等の生活空間における交通安全対策～

大仙市大町通は、大仙市と国土交通省湯沢河川国道事務所で死傷事故データ、ビッグデータ（ETC2.0 プローブデータ）を分析したところ、交通事故が多く、急ブレーキが多発していることが判明いたしました。

そのため、生活道路の交通安全対策を実施するため、協議会（教育委員会、学校、自治会、警察、バス事業者、道路管理者、秋田大学で構成）を設置し、現在まで、ゾーン３０の路面標示及び標識、視覚的狭さく、視覚的ハンプなどの対策を実施しております。

今回、速度抑制の効果を検証するため、仮設の『ハンプ』（凸部）を設置し、実証実験を行いますのでお知らせいたします。

なお、国土交通省東北地方整備局が提供する仮設ハンプを使用した実験の取り組みは、秋田県内で、初めての実施となります。

実験期間：平成２９年１０月２４日（火）～２６日（木）
設置場所：大仙市大曲上大町
設置箇所数：１箇所

＜発表記者会＞
秋田県政記者会、横手記者会、秋田魁新報社大曲・湯沢支局
秋田建設工業新聞、秋田建設新聞社秋田支局

※現地での取材を希望する場合は大仙市建設部道路河川課まで電話連絡をお願いします。

＜問い合わせ先＞
【安全対策工事全般に関すること】
大仙市　建設部　道路河川課
副主幹　北澤　真（きたざわ　まこと）、副主幹　佐藤彰（さとう　あきら）
電話：0187-66-4905
【通学路等の生活空間における交通安全対策事業の政策に関すること】
国土交通省　東北地方整備局　湯沢河川国道事務所
副所長（道路担当）　松井　幸男（まつい　ゆきお）
電話：0183-73-3174

市道大町通では歩行者も自転車も安心して通行できる道路づくりを行っています。

市道大町通の現状

- 走行車両のスピードが速く、周辺の他の道路に比べて事故も多く発生しています。
- 道路の幅が広いため、停車車両の脇を無理にすり抜ける車が見られます。
- 高校生の自転車での利用も多く、並走や歩道部をはみ出しての走行などが見られます。

安全な道路を目指し、ゆとりを持って利用できる環境づくりを進めます。




歩行者と自転車が入り乱れていました。



ゾーン30

設定することで、車両の速度を落とします。

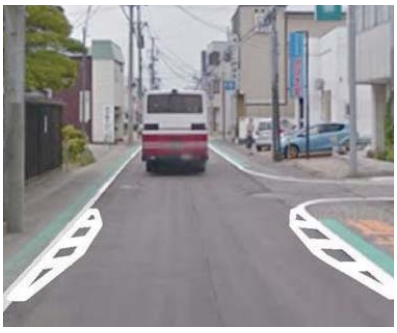
小学校の通学路や住宅街などに制限速度 30km/h の区域を定め、その区域を通過する自動車の速度抑制・通過交通抑制を面的に行うものです。





狭さく

部分的に車道の幅を狭め、危険なすり抜けを防止します。



ハンプ

設置することで車両の速度を落とします。

車道の路面を盛り上げ、減速を促す対策です。



大仙市建設部道路河川課

大仙市生活道路安全マップ［大曲小学校周辺］



1

大町-上大町-栄町は一方通行で路側帯が広い道路のため停車車両（送迎・荷卸し）が多く、登下校時には、車道側にはみ出して歩かなければならない時があります。

2

交差点での溜りスペースがなく、駐車場や従道路の脇に待機しています。

3

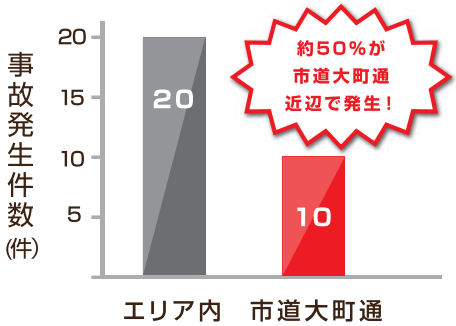
バスが停車している脇をすり抜けて通行する車両があり、反対側の歩道部にはみ出て走行しています。

4

大仙警察署前交差点（歩車分離信号）では、栄町方面の退避場所が狭く、下校時には子供たちが車道にはみ出しがちになります。

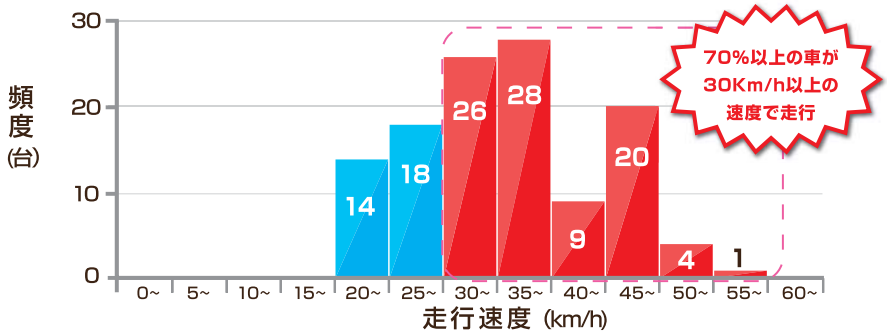
データで見る市道大町通の課題

■事故の発生状況



■車の走行速度

※交通量調査結果
調査日：平成27年12月14日（月）6:55～8:10に通過した自由走行の120台の観測結果



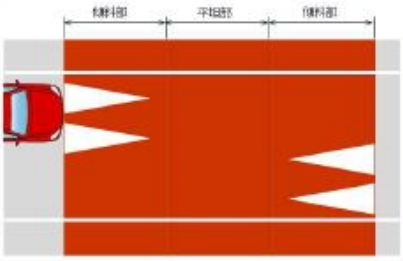
ハンプ（凸部）とは

○自動車の走行速度を低減するために、道路上に設けられた凸型の構造物

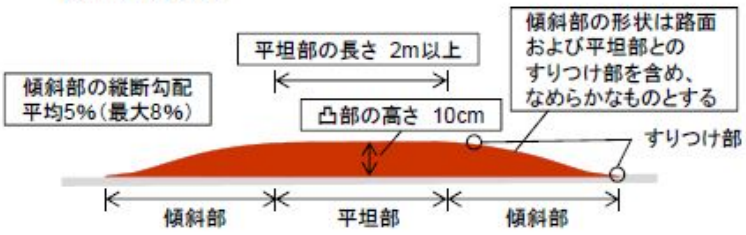




［平面図］



［縦断面図］



※今回、実験で使用するハンプは、持ち運びできる仮設のものです。国土交通省東北地方整備局で所有しているものを大仙市に提供し実験するものです。